

こども・子育て分野における生成AIの適切な利用等を進め、「こどもまんなか社会」の実現を目指す、こども家庭庁の「こども・子育て分野における生成AI利用実証事業」の採択を受けました。

1 目的

本市では「加賀市保育ビジョン2024—2026」を定め、公立保育園全園での「創造性を育む保育・教育」の実践を進めている。

子どもたちの探究的な学びを充実させるべく、実践に取り組んでいるが、保育者各々が一定の子ども観・保育観を持ち、起点となる子どもの姿を客観的に解釈・記録することについて、生成AIを適切に活用することで、保育士の負担軽減や、探究的な学びをデザインするノウハウの蓄積を支援する。

2 実証対象

市内公立保育園（加陽保育園）

こども・子育て分野における生成AI利用実証事業について

3 スケジュール

令和6年8月：連絡帳及び日誌のフォーマット定義

令和7年1月：現地実証

2月～3月：事業報告書作成、成果報告

4 参加者、役割

(1) 実証主体 加賀市

(2) 協力事業者

①株式会社VisionWiz

プロジェクト全体統括、AI写真サービスの提供

②株式会社エクサウィザーズ

生成AIシステムの開発

③まちの研究所株式会社

レッジョ・エミリア・アプローチに基づく探究学習の知見の共有

5 市の経費負担 なし

こども・子育て分野における生成AI利用実証事業について

保育現場の写真

AI写真撮影アプリを活用し、撮影負担を最小化



子どもの姿を起点にした記録

こどもの姿 事例テキスト

2023年11月14日 8:30～アトリエ
3歳児めぐる 4歳児こん 5歳児まや
記録者 すみれ

園庭から採取された柰榴の実。こどもも大人も、通りすがりに触ったり、香ったりする。「これは何?」「食べてみたい」柰榴をインスピレーションに作られたパレットと、これまでも触れてきた様々な紙を提案する。



柰榴ってどんな感じか描いてみよう?
(めぐる)ワックスペーパーと顔彩を選ぶ。こちょこちょして溶かすんだよ、と伝えると紙の上で筆を滑らす。
(まや)画用紙がほしい、と棚から自分で紙を持ち出す。

(めぐる)の行為をじっと見てみると、(こん)Xまや)も一緒になって見る。
「ふるふるで一緒だね」
「(実が)思ったより硬い」と言われて、
(めぐる)も自分の表現を見つめる。瑞々しい柰榴の粒と並べる。

(まや)「そっくりな色」で粒を描いていくとボウルに入れる。「柰榴にぴったりのお皿なんだ。」
(めぐる)まやの様子を見て、同じ紙が欲しい。そのものを描く様子にも影響を受けて、柰榴の実そのものを描いている。「甘い。」

焦点 #秋 #再訪 #香り #触り心地 #色味 #感じる
素材 #園庭 #柰榴 #和の顔彩 #ワックスペーパー #画用紙
願い #よく見る #手で考える #共同 #味わう

子どもの姿を起点にした各種アウトプット

ユースケース①

連絡帳

ユースケース②

クラス日誌

ユースケース③

探究的な学びを促す
明日の活動のデザイン

ユースケース④

教育的
ドキュメンテーション